



帰国生の学校選び A to Z

●第10回●

学校選びは自分自身の目と耳、肌で確認したい。

受験シーズンも終盤に差し掛かってきました。帰国生入試の受験生の朗報も続々と入ってきています。これから受験予定の方にとっては、知人のお子さんの合格した学校が、自分の子どもの受験対象校として浮上するのではないのでしょうか。知人を通じて入試や学校に関する情報が収集できるという点で心強いと思います。ただし、その学校が自分の子どもに相応しいかどうかを十分に見極める必要があります。

帰国生を毎年のように多数受け入れている学校は、多くの帰国生にとって適しているのだと思いますが、中にはその学校にどうしてもなじめない子どももいます。親がインターネットで情報収集したり、学校の先生とメールや電話でやり取りしたりして、とても気に入った学校でも、子どもには合わなかったというケースもあります。これは、子ども自身が学校を見学して、実際の雰囲気や自分自身の目で見たり耳で聞いたり肌で感じたりしていないからです。そういう意味で学校訪問は受験校選択にとって重要なステップです。

海外に住んでいるから学校を見に行くのは大変という消極的な姿勢はよくありません。入学後は、1日の中の多くの時間を過ごすのが学校です。学力向上のみならず、人間形成の場でもあるのが学校です。特に帰国生は日本の学校に順応するのに苦労することがあるので、学校選びは慎重に行うことをお勧めします。

学校訪問する際には、授業を見学させてもらうのはもちろんですが、クラブ活動など授業以外の学校生活の様子も見るとよいでしょう。在校生、特に帰国生と話をするような機会を与えてもらえれば、なおよいでしょう。また、学校の先生に積極的に質問しましょう。教育方針やカリキュラムの特徴、入学試験の内容や選考方法などの情報収集をすることも良い機会です。このように学校側とコミュニケーションを図っておくことが、受験した際に好影響を与えることもあるかもしれません。



執筆者：丹羽 隼人
(文京学院大学女子中学校 高等学校 北米事務所・アドバイザー)

河合塾での指導経験を経て、米国では補習校・学習塾で帰国生入試受験生を指導。現在はデトロイト補習校講師。代表を務める「米日教育交流協議会」では、日本語・日本文化体験「サマーキャンプ in ぎふ」を実施。他に、河合塾北米事務所・アドバイザー。お問い合わせ先：E-mail bunkyo@ujeec.org / Phone & Fax 1-855-926-1140